県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

みやぎの　４月号
農業普及現場

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.182　2022.4

紹介内容（3/1～3/31）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

○　石　巻農改：第 51 回日本農業賞において，株式会社ぱるファーム大曲が「優秀賞」を受賞しました！
○　亘　理農改：亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
○　栗　原農改：令和４年度栗原市生産組織連絡協議会通常総会が開催されました
○　仙　台農改：水稲カメムシ防除研修会が開催されました
○　気仙沼農改：農業簿記ソフトを活用した記帳支援を行いました
○　栗　原農改：令和３年度くりはらスプレーマム研究会総会・研修会が開催されました
○　仙　台農改：株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました
○　美　里農改：「若手経営者経営管理講座（特別講座）」を開催しました
○　石　巻農改：石巻４Ｈクラブ通常総会の開催
○　登　米農改：登米地域農業経営力向上セミナーを開催
○　気仙沼農改：「農業法人運営管理に関する勉強会」を開催しました
○　大　崎農改：令和３年度農事功績者表彰「緑白綬有功章」の伝達式が開催されました

②　新たな担い手の確保・育成・・・４

○　美　里農改：新規就農者のためのねぎ講座を開催しました
○　石　巻農改：「家族経営協定」に関する研修会を開催しました
○　美　里農改：女性農業者を対象に安全衛生管理研修会を開催しました
○　気仙沼農改：気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催しました
○　大　崎農改：大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の総会が開催されました
○　大　崎農改：令和３年度大崎４Ｈクラブ通常総会が開催されました
○　亘　理農改：女性農業者へ衛生管理専門家を派遣しました
○　登　米農改：令和３年度みやぎ農業未来塾「経営感覚向上研修会」を開催しました

③　先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

○　登　米農改：アグリテックの導入に向けて，専門家による助言を行いました
○　亘　理農改：令和４年産水稲乾田直播栽培の播種が始まりました！

④　園芸産地の育成・強化支援・・８

○　大　崎農改：色麻町にてねぎ作付けに向けた土壌調査を行いました
○　登　米農改：栽培コンサルティング技術高度化セミナー　きゅうり編第３回が開催されました
○　石　巻農改：地域の園芸振興に向けて関係機関が参集しました
○　亘　理農改：りんご商品開発　専門家派遣を実施しました
○　亘　理農改：促成きゅうり現地検討会が開催されました
○　亘　理農改：生産者と実需者の連携強化に向けたカーネーション産地研修会を開催しました
○　石　巻農改：河北せりレシピ集を発行し，お披露目会を開催しました！

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○　栗　原農改：ズッキーニ栽培講習会が開催されました
○　栗　原農改：農地整備地区での高収益作物の安定生産を目指して
○　亘　理農改：「亘理・山元果樹産地構造改革計画」が制定されました！
○　亘　理農改：名取のカーネーションの産地紹介のしおりが作成されました
○　大　崎農改：JA 古川そらまめ部会現地巡回が開催されました
○　大河原農改：丸森町生食用いちじく定植講習会が開催されました
○　気仙沼農改：枝もの用クロマツ栽培希望者向け研修会を開催しました
○　栗　原農改：スナックえんどう現地検討会が開催されました

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
○　大　崎農改：水稲乾田直播の実態調査を行いました
○　大　崎農改：小麦の生育調査を行いました
○　栗　原農改：一迫水稲採種組合の水稲種子籾栽培講習会が開催されました
○　栗　原農改：「水田における高収益作物導入に向けた排水対策研修会」を開催しました
○　亘　理農改：大豆特定種子の生産物審査証明書を発行しました
○　石　巻農改：穂数確保に向けた麦現地検討会が開催されました
○　石　巻農改：生育ステージ確認の麦現地検討会が開催されました

２．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築
①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
○　大　崎農改：あ・ら・伊達なシャインマスカット，今年の作業はせん定から
○　美　里農改：酒造好適米「吟のいろは」の情報交換会を開催しました
○　亘　理農改：亘理町産りんごを使った新商品を販売中です！
○　亘　理農改：ヤマト運輸株式会社との連携による果物ロゴマーク入りご当地のぼり旗贈呈式開催！
○　大　崎農改：上品な色の染め物にも活用される薬用植物「ムラサキ」のは種作業が行われました
○　栗　原農改：ふさすぐりせん定講習会を実施しました

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○第51回日本農業賞において，株式会社ぱるファーム大曲が「優秀賞」を受賞しました！
令和4年3月3日
石巻農業改良普及センター

令和４年１月 31 日（月），東松島市の株式会社ぱるファーム大曲が第５１回日本農業賞集団組織の部で「優秀賞」を受賞しました。

日本農業賞は，日本放送協会（NHK）及び一般社団法人全国農業協同組合中央会，都道府県農業協同組合中央会が主催し，日本農業の確立をめざして，意欲的に経営や技術の改善に取り組み，地域社会の発展にも貢献している農業者や，食や農の担い手として先進的な取り組みをしている集団組織を表彰しています。

株式会社ぱるファーム大曲は「地域とともに」，「地域のために」を社訓に，東日本大震災で水田が壊滅的被害を受けた中，４人の農業者が再起に向けて法人を立ち上げました。100ha を超える大規模経営に成長し，津波被害から復旧した水田で水稲・大豆・麦の輪作体系に取組み，また，50a の大型鉄骨ハウスでのミニトマト栽培をはじめ，ほうれんそう，にんにく栽培など複合化を積極的に展開し，周年栽培を実現しています。

特に，社員を積極的に採用し，女性社員が大型農機のオペレーターとして活躍するなど若手育成が計画的になされている点が評価され，地域農業を先導する農業経営として，全国 95 件の応募の中から，見事優秀賞に選ばれました。受賞おめでとうございます。

○亘理名取地区地域営農推進研修会を開催しました
令和4年3月7日
亘理農業改良普及センター

将来にわたり地域の農業が安定して持続・発展していくためには，若い世代への経営承継が必要であり，農業経営者にとって重要な課題です。そのためには早くから次の代へのバトンタッチに向けた取組を進めていく必要があります。

そこで，農業法人代表者等農業経営者の方々を対象に，経営承継に向けて必要なこと，これから行わなければならないこと等について理解を深め，更なる経営発展につながるように，「事業承継」をテーマとした，亘理名取地区地域営農推進研修会を，令和４年２月２５日に岩沼市玉浦コミュニティセンターを会場に開催しました。

講師には，当普及センターの普及指導協力委員でもある，ＫＡＺーコンサルティングの中小企業診断士の一柳和博氏を招き，「農業者の事業承継について」と題して，その進め方や親族内承継・親族外承継のメリット・デメリット及び留意点等について御講演をいただきました。

また，先進事例紹介として，登米市の有限会社伊豆沼農産取締役社長の佐藤耕城氏から，「農業を食業にかえる　～農村産業の構築を目指して～」と題して，実体験に基づく御講演をいただきました。

参加者は熱心に聴講し，質疑応答では各法人の課題解決に向けて，講師からのアドバイスをいただきました。

普及センターでは，管内の農業経営の発展のために，今後も関係機関と連携しながら支援を行っていきます。

○令和4年度栗原市生産組織連絡協議会通常総会が開催されました
令和4年3月9日
栗原農業改良普及センター

２月２５日（金）に，ＪＡ新みやぎ志波姫支店で栗原市生産組織連絡協議会の通常総会が開催されました。

栗原市生産組織連絡協議会は，平成５年に栗原郡内の農業生産組織２０組織が組織の自立と主体性確立・組織間の連携を図ることを目的に設立され，来年で３０年目を迎えます。その間，農業経営環境が大きく変貌する中で，会員組織の法人化や加入脱退もあり，現在は１０会社法人・７農事組合法人・３生産組織の２０組織で構成しています。総会では，新型コロナウイルス感染症が収束しないため，前年度総会で決定した協議会青年部活動や，主要事業の研修会や先進地視察研修が軒並み中止されたことが報告されました。

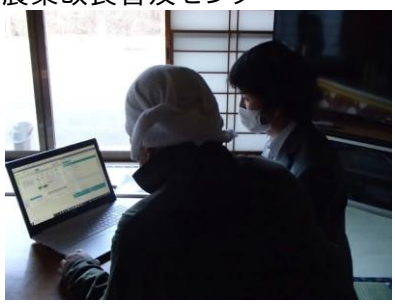
総会後には，普及センターから２月に開催した栗原地域農業経営セミナー「時代の先を見据えたビジネス戦略と人材づくり」の講演要旨を伝達したほか，みどりの食料システム戦略や各種補助事業の情報提供を行い，会員からは主食用米から作付転換の問題や，作付転換営農継続支援事業（県単）への質問がありました。

○水稲カメムシ防除研修会が開催されました
令和4年3月10日
仙台農業改良普及センター

斑点米カメムシ類の吸汁による着色粒（斑点米）は，管内でも多く見受けられ，特に雑草地，耕作放棄地等が多い地域において問題となっています。
このため，令和４年３月４日，JA 仙台主催による「水稲カメムシ防除研修会」が JA 仙台西部営農センターで開催され，農業者 20 人が出席しました。
当普及センターではカメムシ類の適期防除について，写真やグラフ等を用いて分かりやすく説明しました。また，農薬メーカーからは農薬の適正使用方法等について講義が行われ，出席者は熱心に耳を傾けていました。研修の最後には，「カメムシの吸汁方法や農薬のカメムシへの効き方について初めて知った」という感想や，農薬散布に関する現場での悩みや疑問等，活発な意見や質問が交わされ，有意義な時間となりました。

○農業簿記ソフトを活用した記帳支援を行いました

令和4年3月11日
気仙沼農業改良普及センター



新規就農者や 4H クラブ，青色申告を行う農業者を対象に簿記ソフトを利用したパソコンでの記帳支援を行いました。
簿記による会計の適正管理は，税務申告の基礎になるだけでなく，青色申告を行うことで最大 65 万円の控除をはじめ，収入保険に加入できるなど農業者にも利点があります。
一方，パソコンを使った簿記ソフトへの入力は，普段からパソコンなどの扱いに慣れていないと大変な面もあります。
当普及センターでは，簿記ソフトの使い方について，個別の巡回指導や JA の青色申告会が主催するパソコン簿記研修会（12～2 月，計 5 回）をとおして理解を促し，円滑な記帳を支援しています。
また，部門ごとの収支の振り返りをとおして，経営改善方針の検討につなげることも重要です。パソコンを使えばデータを集計することも簡単なので，収支計画を作成するのも有効です。
パソコン簿記は大変な面もありますが，これらの利点を理解していただき，その活用をとおして，効率的な記帳や経営向上につなげていけるよう，今後も継続して支援を行っていきます。

○令和3年度くりはらスプレーマム研究会総会・研修会が開催されました

令和4年3月15日
栗原農業改良普及センター

３月２日（水）にくりはらスプレーマム研究会通常総会及び研修会が栗原合同庁舎で開催されました。
くりはらスプレーマム研究会は，栗原市，登米市，大崎市，涌谷町のスプレーぎく生産者が連携し，スプレーぎく栽培の技術情報の収集や相互交流等の活動をしている組織で今年で２６年目を迎えます。現在は，後継者である若い世代を中心とした運営に移行してきており，スプレーぎくを一輪に仕上げるディスバッドマムの生産も増えています。
総会では，令和３年度事業報告や収支決算報告，令和４年度の事業計画や収支予算等について協議され，承認されました。
令和３年度は，髙橋伸勝さんのディスバッドマムが令和３年度宮城県農林産物品評会・花き品評会で農林水産大臣賞を受賞，また，(有)川ログリーンセンターが全国優良経営体表彰販売部門で全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞するなど嬉しいニュースがあり，若手の会員からは，自分たちも先輩の技術，経営を学んでいきたいとの声も聞かれました。
総会終了後，種苗会社の担当者を講師に新品種等の研修会を開催し，令和４年度作付けに向けて品種選定の参考としました。

○株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました

令和4年3月18日
仙台農業改良普及センター

令和４年３月１０日，株式会社イグナルファーム大郷で，今作３回目の栽培振り返り検討会が開催されました。検討会には，当普及センターや農業・園

芸総合研究所の職員が出席し，これまでのミニトマトの栽培管理状況や収量の推移，作業時間等を確認し，次作に向けて生産面の課題の洗い出しを行う意見交換を実施しました。

課題の洗い出しでは，栽培，防除，収穫・選別，労務管理の各担当から，それぞれの視点で問題提起が行われましたが，担当者によって課題の捉え方が様々でした。そのため，普及センターでは，法人で設定している収量や売上等の目標との関連性を軸に，重要性や緊急性に応じた課題整理について助言を行いました。これを受け，同法人では再度課題の洗い出しを行い，改めて３月中に課題整理に向けた検討を行うこととしています。

普及センターでは，今後も引き続き生産性の改善に向けて支援を行っていきます。

○「若手経営者経営管理講座（特別講座）」を開催しました

令和4年3月22日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センターでは本年度，若手農業経営者が経営の計数化を通して経営管理能力の向上を図ることができるよう，「若手経営者経営管理講座」を開催しました。　講座は 12 月から１月にかけ複式簿記の記帳技術の習得を目的とした勉強会を４回行い，3 月 17 日には特別講座として，ＨＳ経営コンサルティング株式会社代表取締役本田茂氏を講師に，「損益計算書の見方と収支計画の立て方」をテーマに研修会を行いました。

前半の「損益計算書の見方」では，「収支を計算シートに入力すると数字の意味について考察するようになり，理解できるようになる。」と講師から説明があり，収支計算書の入力方法や数値を読み説く演習を行いました。

後半の「収支計画の立て方」では，「自分で納得した数字で収支計画を作ることにより，地に足が付いた経営計画が作成できる。」と解説があり，収支計画の立て方について学びました。

研修後，受講者からは，「収支は数字の結果だけではなく，日々の積み重ねだということが理解できた。」「数字によって見えてくることがある。収支を年末にまとめるのでは無く，雨の日の仕事にしてこまめにチェックしていきたい。」「経営の振り返りや今後の経営の見直しにつなげるために，損益計算書の分析にチャレンジしてみたい。」等の積極的な感想が出されました。

○石巻4Hクラブ通常総会の開催

令和4年3月22日
石巻農業改良普及センター

令和４年３月 14 日(月)18:00 に石巻合同庁舎で石巻地区４Ｈクラブ連絡協議会令和４年度通常総会を開催し，令和３年度事業報告並びに収支決算や令和４年度事業計画並びに収支予算案，役員改選など５つの議案が審議され，すべて承認されました。

事業報告では新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中，感染症対策を工夫しながら石巻合庁での農産物直売会「青空市」や視察研修会（ＪＲフルーツパーク仙台あらはま、宮城県農業・園芸総合研究所）を行い，農業経営の改善や仲間づくりに取り組みました。

令和４年度は役員全員が留任し，農業知識・技術・経営能力の向上を目指して，各種研修会や青空市など地区連活動を基本に，県連と連携しながら活動する予定です。

石巻普及センターでは，新規就農者等の会員勧誘による組織強化など引き続き活動を支援してまいります。

○登米地域農業経営力向上セミナーを開催

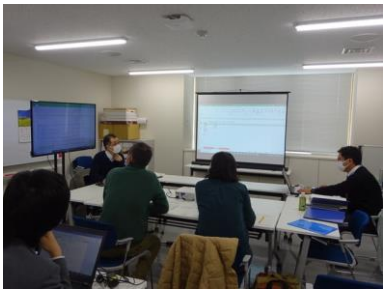
令和4年3月24日
登米農業改良普及センター

令和４年３月 14 日，登米合同庁舎で，登米地域農業経営力向上セミナーを開催しました。

第１部の事例発表では，有限会社耕佑　代表取締役　伊藤秀太氏，株式会社よつばファーム　代表取締役　熱海光太郎氏，株式会社石ノ森農場　代表取締役　山内健太郎氏の３名から各社の経営概要及び人材育成の取り組みについて御紹介いただきました。また，第２部のフリートークでは，「これからの経営発展に向けた働きやすい職場づくりとは」をテーマに，従業員（社員・パート）の確保・育成などについて具体的な取組や今後の課題などを参加者も含めて意見交換しました。

各講師は，会場から次々と出された質問に対して具体的な事例などを取り上げて回答し，予定時間を超えて質疑が交わされました。参加者からは，「代表それぞれの考え方が勉強になった」，「各社とも人材教育に気を配っていることが分かった」，「社員の意見を出しやすくするためにワークショップを導入したい」などの意見が聞かれるなど，働きやすい職場づくりの重要性への理解を深めるセミナーとなりました。

○「農業法人運営管理に関する勉強会」を開催しました
令和4年3月24日
気仙沼農業改良普及センター



令和４年３月７日，管内で露地園芸作物の生産拡大に取り組む２法人を対象に，気仙沼合同庁舎を会場に「農業法人運営管理に関する勉強会」を開催しました。中小企業診断士の本田茂氏（HS 経営コンサルティング株式会社代表取締役）を講師にお迎えし，経営目標達成のための計画的な法人運営管理について検討しました。

財務諸表をもとにしたヒアリングにより，専門的な視点から営農状況を改めて把握するとともに，将来的な収支計画の試算等を行いながら，売上向上のための販促活動の必要性や規模拡大，新規雇用等の方針を検討することで，法人の目指す将来像を考えました。

法人運営に関する様々な事例を紹介いただきながら積極的に議論が行われ，経営発展に向けて意欲の高まりが見られる有意義な勉強会となりました。

○令和3年度農事功績者表彰「緑白綬有功章」の伝達式が開催されました
令和4年3月31日
大崎農業改良普及センター

公益社団法人大日本農会が主催する「令和３年度農事功績者表彰」において，加美町の加藤重子氏・孝志氏夫妻が「緑白綬有功章」（りょくはくじゅゆうこうしょう）を受章しました。

重子氏は地域に生活研究グループを設立するなど，女性農業者の組織化に寄与したほか，宮城県指導農業士や女性農業者組織の役職を歴任し，本県の女性農業者のリーダーとして，農業後継者の育成や，農村における男女共同参画の推進に尽力しました。産直施設「やくらい土産センター」の設立に寄与し，農産物の直売活動を通して，農村と都市との交流や，地域の農業者の所得向上に貢献し，平成１３年には，夫の孝志氏や仲間らと農家民宿「花袋・天王」を開業し，伝統食や農業体験の提供を通してグリーン・ツーリズムを実践するとともに，農村の魅力発信に努めてきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，東京都内で秋篠宮殿下ご臨席のもと開催予定であった表彰式が中止となったため，宮川農政部長から加藤氏へ表彰状の伝達が行われました。

加藤氏からはこの受章により背中を押された気持ちであり，今後とも積極的に活動していきたいとのお話を頂きました。

②新たな担い手の確保・育成

○新規就農者のためのねぎ講座を開催しました
令和4年3月2日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センター管内では，ねぎ栽培に取り組む新規就農者が増えてきていますが，地域が点在しており，情報交換の場が限られていました。また作型も，夏から秋の出荷がほとんどで，市場単価が低く出荷時期も集中することから，作期の拡大が課題となっていました。そこで，ねぎを栽培する新規就農者を対象に，技術の習得や交流を目的として研修会を開催しました。

最初に，農業・園芸総合研究所野菜部露地野菜チームの高橋技師より「宮城県におけるねぎ作型と試験研究結果について」というテーマで，端境期である６月出荷が可能となる技術について情報提供がありました。

続いて，栗原市瀬峰でねぎを生産している片倉栄治氏より事例紹介をいただきました。片倉氏は 10 年前に就農し，技術の研鑽を重ねることで県内トップレベルのねぎを生産しており，宮城県農林産物品評会においても複数回にわたり一等を受賞しています。片倉氏からは，技術の基礎となる土づくりから，経営の基本となるお金の流れなど，多岐にわたりお話しいただきました。

その後の情報交換会では，品種や土づくり，経営の悩みなど，活発に意見が交わされていました。

○「家族経営協定」に関する研修会を開催しました

令和4年3月3日
石巻農業改良普及センター

令和４年２月 24 日（木），石巻市農業委員・農地利用最適化推進委員 36 人を対象に「家族経営協定」について研修会を開催しました。農業委員会では，昨年７月の改選に伴い，農業委員 19 人および農地利用最適化推進委員 20 人の内、約半数が新しいメンバーになったことを受け，改めて「家族経営協定」について学びたいとの希望があり，普及センターが講師として研修会を行いました。

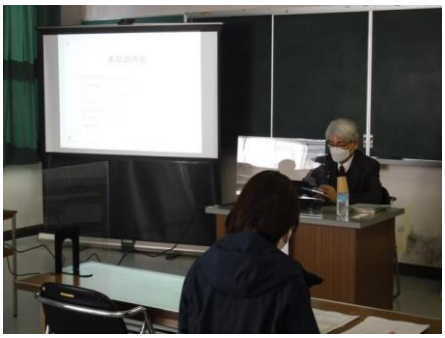
家族経営協定とは，家族で取り組む農業経営について，経営の方針や家族一人一人の役割，就業条件・就業環境について家族みんなで話し合いながら決めることで，一人一人が「やりがい」を感じるようにするものです。締結することで，認定農業者の共同申請ができ，認定されると融資や農業者年金の保険料支援が受けられます。

すでに締結している委員からは，「締結してから時間がたっているため，改めて見直しが必要だと感じた」や「家族の決めごととして，旅行や研修へ行くなども盛り込んだため，行きやすくなった。また，役割が与えられて責任感も生まれた。家族経営協定は「ラブレター」といわれるほど対話が重要。気持ちを言い合うことでお互いの考えていることが伝え合えて，自分たちは締結してとても良かったと感じている。」などの感想がありました。

地域の農業者の経営から生活までよくわかっている農業委員自身が，協定の良さを知ったので，今後の活動の中で，「農業経営」の発展に必要と思われる農業者に締結の提案をしていただければと思います。

○女性農業者を対象に安全衛生管理研修会を開催しました

令和4年3月4日
美里農業改良普及センター



雇用を導入している経営体においては，女性農業者が雇用管理を担うケースが増えてきており，女性農業者のマネジメント能力の向上が必要となっています。美里農業改良普及センターでは，昨年に引き続き「女性農業者のためのマネジメント講座」を企画し，本年は「職場における安全衛生管理」をテーマに全２回の講座を開催しました。

昨年 12 月の第１回講座(工場見学，講話)に引き続き，第２回講座は１月 17 日に行い，あべ社会保険労務士事務所代表社員の阿部裕一社会保険労務士を講師に，「従業員の安全衛生管理」と題し，座学による研修会を行いました。

阿部社会保険労務士からは，安全衛生管理の基礎から，労災事故が起きた場合の手続き，労災保険の適用範囲等，事例も混じえて講義が行われました。

農業の現場では，夏場の高温下や足場の悪い場所での農作業があることや，作業従事者が高齢化していること等により，労災事故が起きやすい環境にあることから，事業主は安全衛生管理の重要性を十分に認識して，率先して対策を行う必要があるといった説明がされました。

参加者の多くは従業員を雇用していることもあり，講義を熱心に聞き入っていました。その後の質疑応答においても，「家族で法人化した場合は労災保険の

適用になるか」,「記録の様式については定まったものがあるか」といった質問が出されていました。

○気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催しました

令和4年3月9日
気仙沼農業改良普及センター

令和４年３月１日，ＪＡ新みやぎ南三陸地区本部において「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。

当普及センター管内では，新規参入による果樹栽培の就農希望者が多く，既に果樹経営をスタートした方もみられます。そこで，特に希望者の多いぶどうについて基礎から学ぶ研修会を開催しました。

講師にはＪＲフルーツパーク仙台あらはまの菊地秀喜専門監をお招きし，「ぶどうの魅力，その栽培について」をテーマに講演していただきました。講演では，ぶどうの品種特性や米国系･欧州系といった系統の特徴，また，当地域特有のやませ(春から夏に吹く冷たく湿った東よりの風)等，気象条件に対応した栽培のアドバイス等，一般的な事項から地域特有の問題点についても幅広くお話しいただきました。

参加者からは質問も多く出され，時間が足りず研修会終了後も講師に質問する姿が見られました。また，研修会終了後も，参加者同士で情報交換しており，とても有意義な研修会となりました。

○大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の総会が開催されました

令和4年3月17日
大崎農業改良普及センター

令和４年３月１４日に大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の総会が開催されました。

当協議会は，大崎市古川と加美町の計１６の生活研究グループからなる組織で，毎年食育などをテーマに研修会を行っています。

昨年度の総会は感染症拡大防止対策として書面決議としたため，２年ぶりの総会となりました。今回は役員と各グループからの代表のみの参加を求め参集範囲ををしぼり，また例年行っている研修会は見送りとしましたが，久しぶりに対面での交流となりました。

総会では今年度の活動報告と次年度も感染症対策に留意しながら研修会を続ける計画が提案され，全ての議案が承認されました。また，総会終了後には会員から希望する研修会や視察先について積極的な意見が出されたり，当日発行された当協議会の機関誌「かかしのホットライフ」に話を弾ませ親睦を深めていました。

普及センターでは，今後も関係機関と連携して，女性農業者の資質向上を支援してまいります。

○令和3年度大崎4H クラブ通常総会が開催されました

令和4年3月17日
大崎農業改良普及センター

大崎４Ｈクラブの令和３年度通常総会が，令和４年３月１５日（火）に大崎合同庁舎で開催され，クラブ員１１名が出席しました。

総会では，令和３年度事業報告や収支決算報告，令和４年度の事業計画や収支予算，新役員案等が協議され，承認されました。新会長からは，令和３年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得ない行事もあったが，令和４年度はオンライン等も使用しつつ，活発に活動していきたい旨，挨拶がありました。

普及センターでは，今後も大崎４Ｈクラブの活動を支援して参ります。

○女性農業者へ衛生管理専門家を派遣しました

令和4年3月22日
亘理農業改良普及センター

女性農業者は，地域農業の発展に重要な役割を担っており，今後も多様な分野での活躍が期待されています。

令和４年３月 15 日，亘理農業改良普及センターでは，今年度の支援対象としている「みやぎのあられ株式会社（亘理町）」へ，若手女性農業者が中心となって活躍している加工部門の衛生管理向上に向け，専門家派遣を行いました。

一般財団法人　宮城県公衆衛生協会　保険衛生部安達技術管理官より，HACCP の考え方を取り入れた一般衛生管理，重要管理とその運用について指導をいただきました。また，支援対象者の加工品製造作業の工程毎に，衛生管理上「危険な点」とそれを「防ぐ方法」について，自分達で考えていく手法も教えていただいたことで，今後，支援対象者がこの考え方を身につけ，実践していくことが期待されます。

普及センターでは，今後も女性農業者の活躍を支援していきます。

○令和3年度みやぎ農業未来塾「経営感覚向上研修会」を開催しました
令和4年3月31日
登米農業改良普及センター

（ワークショップの様子）

令和４年２月２５日(金)に，みやぎ農業未来塾「経営感覚向上研修会」を登米合同庁舎で開催しました。研修では，新規就農者の経営感覚を高めることを目的として，先輩経営者による講演と農業経営カードゲーム「農トレ」によるワークショップを行いました。

講師に，株式会社石ノ森農場　代表取締役　山内健太郎　氏を招き，自身が法人化や経営規模拡大といった新たな挑戦の際に考えたことを，分かりやすく話していただきました。

参加者の多くが現在又は将来経営に関わる若手農業者であったこともあり，先輩経営者の話を熱心に聞き入っていました。

また，参加者が２チームに分かれ，農業経営の全体像がゲームを通じて感覚的に理解できる体験型シミュレーションゲーム「農トレ」によるワークショップに取組みました。

ワークショップでは，利益を得るための土地条件にあった作物の選択や自然災害等のリスク回避への投資について互いに意見を交わし，実際に経営している感覚で取組んでいました。

<u>③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化</u>

○アグリテックの導入に向けて，専門家による助言を行いました
令和4年3月3日
登米農業改良普及センター

県では，農業用ドローンや生産管理システムなどのアグリテックの導入を検討中または導入間もない農業者を対象に，専門家が活用方法を助言する「アグリテックアドバイザー派遣事業」を行っています。

登米市の株式会社石ノ森農場では，売上や生産にかかるデータの見える化と社内共有を目的とした生産管理システムの導入を検討しており，この事業を活用しました。

令和４年１月以降，生産管理システムの提供会社がアドバイザーとなり，システムの特徴や活用方法についてのガイダンスを行ってきました。

３月１日に行われた３回目のガイダンスでは，スマートフォンで売上データを閲覧・入力する方法が解説され，実際に社員が入力を行いました。

入力された売上データは得意先別・品目別・規格別などにグラフ化され，売上を多角的に捉えることができ，社員が各々のスマートフォンから同じデータにアクセスすることで，情報共有も可能になることがわかりました。

社長や社員は「入力が簡単で手間が少ない」「社内で同じ情報を見ながら議論するための第一歩が進みそうだ」と手応えを感じていました。

アグリテックは費用が高額なものも多く，導入を迷うこともあるかと思います。普及センターでは，今後も専門家派遣を通じて，アグリテック導入の後押しをしてまいります。

○令和4年産水稲乾田直播栽培の播種が始まりました！
令和4年3月18日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センター管内では，東日本大震災後，法人等の大規模経営で水稲乾田直播栽培が注目され，取組面積が徐々に増加しています。管内における令和４年度の取組面積は，令和３年度から約 40ha 増加し，200ha を超える見込みです。

乾田直播栽培では，育苗や代掻きに要する労力を削減するとともに，移植栽培との作期分散が可能となります。管内における播種作業は，例年３月中旬から始まり，移植栽培の管理が始まる４月中旬には終わります。今年は，年明けから３月にかけての降水量が少なくほ場準備が順調に進んだため，例年に比べ前倒しで播種が進んでいるようです。令和４年度は，古川農業試験場が岩沼市で早期（2 月上旬）播種の実証試験に取り組んでおり，播種可能時期の拡大が期待されます。

乾田直播栽培では，「雑草防除」や「肥培管理」において，移植栽培とは異なる管理が必要となります。普及センターでは，令和元年度から「水稲直播栽培勉強会」を開催し，情報交換をするとともに技術的な課題について検討してきました。令和４年度も，乾田直播栽培技術の高位平準化に向けて重点的に支援していきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○色麻町にてねぎ作付けに向けた土壌調査を行いました

令和4年3月1日
大崎農業改良普及センター

令和４年２月 16 日（水），色麻町のねぎ作付け予定ほ場にて土壌排水性の調査を行いました。

今回の調査では約 70cm の深さまで土壌を掘り，土質，硬盤，地下水位の確認を行いました。調査した結果，地表下 20m 付近に硬盤層があり，70cm に地下水を確認しました。また，他の土壌においても地表下 20cm 付近に硬盤が確認できました。

加美町と色麻町は秋冬ねぎの指定産地で，県内第一位の生産を誇りますが，暗渠が老朽化したほ場を中心に湿害による生育不良や中耕の管理作業が適期に実施できず収量が低下する問題が生じています。そこで，大崎農業改良普及センターでは新たなプロジェクト課題の一環として農機具メーカー，（株）清流しかまのご協力のもと，排水改良実証ほを設置してサブソイラー等の施工実演を行い，ほ場の排水性改善効果を検証する予定です。

普及センターは今後も生産安定化のための技術実証を通し，管内のねぎ生産を支援していきます。

○栽培コンサルティング技術高度化セミナーきゅうり編第３回が開催されました

令和4年3月2日
登米農業改良普及センター

令和４年２月 22 日，登米市中田町のほ場２か所を会場に，「栽培コンサルティング技術高度化セミナー」が開催されました。当セミナーは，県園芸推進課が，株式会社デルフィージャパンの斉藤氏を講師にお招きして開催しており，最終回となる今回は，環境制御機器を導入している生産者と導入予定の生産者計 10 人が参加しました。

セミナーでは，２月に入り促成作が始まったことを受けて，講師から，ハウス管理における厳寒期の注意点に加え，春の気温上昇へ向けての準備について，アドバイスがありました。生産者からはかん水や温湿度管理について質問が多数あったほか，生産者同士の情報交換やアドバイスもあり，大変有意義なセミナーとなりました。

生産者からは「新型コロナウイルスの感染拡大があり十分に部会活動ができていなかったので，勉強できるだけでなく，仲間とのコミュニケーションの場にもなってとても良かった。」「今までの管理で，うまくいっていたことの裏付けとなる知識を得ることができた。」などの声が聞かれました。

今後迎える収穫期に向け，普及センターでは生産者一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。

○地域の園芸振興に向けて関係機関が参集しました

令和4年3月2日
石巻農業改良普及センター

令和４年２月 25 日に石巻合同庁舎において，令和３年度第３回石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。この会議は石巻市，東松島市及びＪＡいしのまき園芸課，営農企画課など，関係機関の担当者が出席して石巻地域の園芸振興について協議する場となっています。

今回は，石巻地域で栽培を推進しているアスパラガスとさつまいもの振興策について話し合いが行われました。アスパラガスは，まだ栽培が小規模ですが直売等を中心とした新たな地域特産野菜として育成していくことを目指します。また，さつまいもは

栽培技術の定着や機械化による生産性向上と販路拡大を図り産地化を目指していきます。それぞれ具体的な推進計画が検討され，石巻圏域園芸特産振興戦略プラン(R3 年度～R7 年度)の地域戦略品目に加えることとしました。

今後も，関係機関が連携して効果的に地域の園芸振興を進めていきます。

○りんご商品開発　専門家派遣を実施しました
令和4年3月7日
亘理農業改良普及センター

今年度，亘理農業改良普及センターでは，りんごの栽培技術向上支援の他，産地 PR 支援を目的に生産者や亘理町，商工会等の関係機関と連携し，地域のりんごを使った商品開発を支援しています。

令和４年３月４日，今年度りんごの商品開発を進めてきた農産加工取組者や直売所等の支援対象者へ専門家派遣を行い，効果的な商品 PR のためのアドバイスをいただきました。

今回の専門家派遣では，県内在住の渡邉樹恵子デザイナーに作成いただいた亘理地域のりんごのロゴマークを，各商品にどのように活用するかのアドバイスや商品販売所内での効果的な PR 方法について提案をいただきました。当日は，新商品のパッケージへのアドバイスの他，商品のレイアウト方法や消費者が目を引くようなフライヤーの掲示の仕方等，具体的な提案も多く，すぐに実践し始める支援対象者もいました。

普及センターでは，今後も当地域のりんごの普及拡大を支援していきます。

○促成きゅうり現地検討会が開催されました
令和4年3月10日
亘理農業改良普及センター

写真：総合検討の様子

令和４年３月８日に JA 名取岩沼ハウス胡瓜部会の促成きゅうり現地検討会が行われました。現地検討会には，部会員のほか JA 名取岩沼の担当者，種苗会社，普及センターが参加し，生産者５名のほ場を巡回して，生育状況等や今後の管理について検討を行いました。

現在の生育は，一部で２月の低温による遅れは見られましたが，概ね順調です。収穫は２月から開始している生産者が多く，これから本格的な時期を迎えます。３月はまだ外気温が低く，天窓の換気や内張カーテンの開閉のタイミング等，ハウス内管理が難しい時期であるため，参加者間で活発に意見交換が行われていました。

普及センターからは，害虫が媒介するウイルスについて紹介し，害虫防除の徹底を中心とした対策について説明しました。

普及センターでは引き続き，巡回等を通してきゅうりの栽培技術支援を行っていきます。

○生産者と実需者の連携強化に向けたカーネーション産地研修会を開催しました
令和4年3月11日
亘理農業改良普及センター

花きの分野では，産地名を表示した販売がほとんど行われていないため，消費者が購入する時に産地を認識しづらい状況にあります。こうした中，名取市花卉生産組合では，昨年度から実需者の協力を得て名取のカーネーションの産地表示販売の実証に取り組んでおり，取組の定着と発展が期待されます。

令和４年３月２日に宮城県花と緑普及促進協議会と亘理農業改良普及センターが共催で，生産者と実需者の連携強化に向けた研修会を名取市で開催し，生花店や仲卸業者の実需者，名取市花卉生産組合員，名取市関係機関の計 28 名が出席しました。

第１部はカーネーション施設ほ場を見学し，ほ場管理者から実需者に向けて，栽培品種の特徴や産地が取り組む IPM 防除等の説明がありました。

第２部は公民館に移動し，「花の地産地消の推進と産地表示」と題して，アサーティブ＆シーエス代表の櫻井真理子先生から講演をいただき，受講後に意見交換を行いました。生花店等実需者から，他県の花き産地の PR 事例の紹介や，「生産者と生花店の連携が重要であり，今後も継続して情報交換を行うべき」等の意見が上がり，名取市花卉生産組合員からも「市場関係者に加え，生花店とも連携を図り，ニーズに対応できるよう取り組みたい」との話がありました。

第１部，第２部を通して，参加者の間で，活発な意見や情報交換が行われ，大変有意義な研修会になりました。
普及センターでは，今後も，生産者と実需者の連携を支援するとともに，産地表示販売の定着，発展に向けた取組を推進していきます。

○河北せりレシピ集を発行し，お披露目会を開催しました！

令和4年3月16日
石巻農業改良普及センター

石巻市旧河北町飯野川地区で約 300 年前から栽培が続くとされる「河北せり」の消費拡大に向けて“河北せりレシピ集”を発行しました。レシピ集には，地元食材にこだわった料理を提供する石巻市のレストラン「アル・ケッチァーノ石巻」の髙橋シェフや女川町食育活動ワーキンググループ，石巻管内栄養士会が考案した料理６品のレシピを掲載しています。食卓が華やぐイタリアン，野菜をたくさん摂れる主菜や汁物など，河北せりの美味しさが際立つ様々な料理がそろいました。
３月２日には，今回レシピ集に掲載した河北せり料理６品のお披露目会を開催し，それぞれのレシピ考案者から料理のポイントや考案に至った思いなどをお話しいただきました。
レシピ集は今後，管内の量販店等での配布を予定しております。
今後も，石巻地域の園芸振興を図るため，様々な活動を行っていきます。

○ズッキーニ栽培講習会が開催されました

令和4年3月17日
栗原農業改良普及センター

令和４年３月２日(水)，ＪＡ新みやぎ栗っこの志波姫支店会議室でズッキーニ栽培講習会が開催され，管内の生産者２０名と種苗会社，普及センターの担当者が出席しました。
種苗会社からは，地温を確認しながら播種・育苗を行うこと，昨年被害の多かった霜害に備えて週間天気予報等を確認しながら定植をすること，通風しや日当たり改善のために摘葉を行うこと等の説明がありました。
普及センターからは，管理作業による耕種的防除やマルチ，ソルゴー等による物理的防除など，化学農薬だけに頼らない防除方法について説明しました。さらに，登録変更となり使用できなくなった薬剤の情報提供や，農薬の特徴を踏まえた散布方法の提案を行いました。
また，群馬県の一部で取り組まれている「ズッキーニ立体栽培」についてビデオを視聴し，栽培方法や特徴に関して周知するとともに，令和４年度は管内の生産者３戸で立体栽培の実証ほを設置し，作業性や収益性について検証していくことを伝えました。
普及センターでは，ＪＡ新みやぎ栗っこのズッキーニの安定生産に向けて，今後も継続して支援していきます。

○農地整備地区での高収益作物の安定生産を目指して

令和4年3月17日
栗原農業改良普及センター

令和４年３月８日（火）に栗原市瀬峰藤田地区の担い手を対象にした「そらまめ栽培研修会」を開催しました。当地区では農地整備事業を契機に高収益作物に取り組むこととしており，そらまめを令和４年秋に播種・定植する計画としていることから，担い手や関係者がそらまめ栽培について事前に学習しました。
はじめに，種苗メーカーから緑肥の種類や効果，緑肥栽培のポイントについて説明を受け，今秋そらまめを作付予定の圃場を見ながら緑肥の種類を検討しました。また，普及センターからはそらまめの管理作業の概要のほか，病害虫防除，排水対策，開花期以降の土壌水分保持など安定生産のためのポイントについて説明しました。
研修会では，栗原市志波姫上沼地区のそらまめの生育状況を確認し，当地区の作付け経験者からアドバイスをもらい，作業イメージを共有しました。
普及センターでは今後も関係機関と連携し，そらまめの安定生産に向けた支援を行っていく予定です。

○JA 古川そらまめ部会現地巡回が開催されました

令和4年3月23日
大崎農業改良普及センター

令和４年３月 17 日，18 日の２日間かけてＪＡ古川そらまめ部会の現地巡回が開催されました。生産者 15 名のほ場を巡回し，生育状況の確認と越冬後の栽培管理について指導しました。

ＪＡ古川では 10 月に播種する秋まき栽培が一般的で，父の日需要に合わせて６月中旬の出荷に向けてそらまめを栽培しています。そらまめは生育初期は耐寒性がありますが，生育が進むにつれて寒さに弱くなるため，春先の被覆資材を外すタイミングが重要になります。今年は低温予報が出ているため４月にはいってから被覆資材を外すように指導しました。また，被覆資材を外す４月以降は気温上昇に伴い，ウイルス病を媒介するアブラムシ類の発生が急激に増えるため，病害虫防除を徹底することや，肥切れを起こさないように追肥を実施すること等を指導しました。

普及センターでは作付前の９月に栽培講習会を行い，今回，越冬後の３月に現地巡回を実施しました。今後もＪＡ古川と連携し，高品質なそらまめ出荷に向けて支援を継続していきます。

○丸森町生食用いちじく定植講習会が開催されました

令和4年3月24日
大河原農業改良普及センター

丸森町は甘露煮用いちじくの産地ですが，新たにケーキ等で需要の高い生食用いちじくの生産拡大に取り組んでおり，令和４年３月 11 日に丸森町農業創造センター主催で，ＪＡみやぎ仙南丸森地区果樹振興部会員を対象に，生食用いちじく定植講習会が開催されました。

大河原農業改良普及センター職員が講師として，いちじく苗の定植実演を行い，植付ける深さは浅く植えることや，生育期間中に芽かきや誘引で樹形を作ることなど栽培ポイントを説明しました。また，在来種の栽培に準じた管理を行い，生育や結実状況の特性を確認して，その結果を元に生食用いちじくに適した栽培方法を検討することとしました。

普及センターでは，生食用いちじくについて，栽培暦による病害虫防除を現地指導するとともに，芽かきやせん定の栽培講習会を開催するなど技術支援を行っていきます。

○枝もの用クロマツ栽培希望者向け研修会を開催しました

令和4年3月24日
気仙沼農業改良普及センター

枝もの用クロマツについては南三陸町内を中心に栽培に取り組まれており，県内他地域の農業者等からの関心の高まりを受け，去る令和４年３月 14 日に，みやぎクロマツ生産拡大連携協議会及び県園芸推進課と共催で「枝もの用クロマツ栽培希望者向け研修会」を開催しました。

県内 13 市町から農業者や関係機関など 85 人が出席し，南三陸町スポーツ交流村ベイサイドアリーナ及び南三陸町内のクロマツ栽培ほ場を会場に，実際の栽培方法やこれまでの取組内容について連携協議会及び普及センターから説明しました。枝もの用クロマツは，種をまいてから出荷に至るまでに４～５年かかる品目であることや一定の機械の整備が必要であることから，各年次で必要な栽培管理や機械の共同利用体制整備の可能性等について，出席者から多くの質問が寄せられました。

枝もの用クロマツ栽培の取組は，まだ始まったばかりであり日々試行錯誤しているところですが，新たな園芸品目として当管内での期待が高まっています。普及センターでは，引き続き南三陸地域に適した栽培方法の確立による安定生産に向けて支援をしてまいります。

○スナックえんどう現地検討会が開催されました

令和4年3月28日
栗原農業改良普及センター

令和４年３月２２日(火)，ＪＡ新みやぎ栗っこスナックえんどう部会の現地検討会が，栗原市瀬峰のほ場２か所で開催されました。現地検討会には，部会

員１３名とＪＡの担当者，種苗会社，普及センターの担当者が出席しました。
種苗会社からは，日照不足による結果不良を防ぐため，混み合うところは早い時期から整枝して花や莢に光が当たるようにすること，極端な乾燥や低温は曲がり莢の発生につながるので注意すること等の説明がありました。
普及センターからは，土づくりや除草等の管理作業による耕種的防除や，ハウス外張りフィルムや防虫ネット等による物理的防除など，化学農薬だけに頼らない防除方法について説明しました。また，病害虫と農薬の特徴を踏まえた薬剤選定の提案を行いました。
普及センターでは，ＪＡ新みやぎ栗っこのスナックえんどうの安定生産に向けて，今後も継続して支援していきます。

○「亘理・山元果樹産地構造改革計画」が制定されました！

令和4年3月30日
亘理農業改良普及センター

亘理町，山元町は県内有数の果樹産地です。
令和４年３月 29 日(火)，ＪＡみやぎ亘理本店で「亘理・山元果樹産地協議会」の臨時総会が開催され，今後５年間の活動内容等を定めた「亘理・山元果樹産地構造改革計画」が制定されました。
当協議会は，亘理町・山元町内の生産者組織と両町，当農業改良普及センター，農地中間管理機構，JA の 7 機関で構成され，昨年 12 月に設立し，今回の計画策定に向けて，生産者アンケート実施による現状把握や今後の担い手対策，振興品種の選定等の打ち合せを重ねてきました。
今後は，今回の計画に基づき，当産地の維持・発展のため，当協議会の担い手対策や優良品目や品種への改植，小規模園地整備など果樹経営の基盤を強化する取組等を推進していきます。
普及センターでは，今後も果樹産地の維持・発展に向けた支援を行っていきます。

○名取のカーネーションの産地紹介のしおりが作成されました

令和4年3月31日
亘理農業改良普及センター

名取市花卉生産組合では，昨年度から実需者の協力を得て名取のカーネーションの産地表示販売の実証に取り組んでいます。当組合では，産地表示販売に合わせ，効果的に産地をＰＲするために，産地紹介のしおりを作成しました。
名取市花卉生産組合内の女性農業者が中心となり，名取市や名取市観光物産協会，宮城県花と緑普及促進協議会，亘理農業改良普及センターも参集した編集会議で検討を重ね，カーネーションの特徴や魅力，産地の歴史等を紹介するしおりが完成しました。
作成したしおりは，令和４年２月から３月に宮城県花と緑普及促進協議会が実施した産地表示販売実証で早速活用され，生花店では，ＰＯＰとしての掲示や一般消費者への配布が行われました。
また，名取市観光物産協会では，しおりの作成に合わせて，当協会ホームページに名取のカーネーションの特設ページを開設し，地元特産品としてのＰＲも開始しました。
特設ページ：
https://www.kankou.natori.miyagi.jp/carnation/
普及センターでは，今後も，花きの産地表示販売の定着，発展に向けた取組を推進していきます。

（産地紹介しおりを活用した地元生花店による産地販売の様子）

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○水稲乾田直播の実態調査を行いました

令和4年3月1日
大崎農業改良普及センター

水稲乾田直播は，育苗をする必要がないうえに湛水直播で問題となっている倒伏にも強いことから，宮城県では石巻や登米を中心に普及が進んでいます。しかし，大崎普及センター管内では取り組んでいる生産者が少ない現状にあります。
そこで普及センターでは，乾田直播の普及推進に向けて，既に乾田直播に取り組んでいる生産者を対象に聞き取り調査を実施しました。作業体系や雑草防除，施肥体系等を聞き取り，課題の共有を図りました。課題としては，出芽の不均一，生育量不足，雑草の発生等が挙げられました。課題の解決を図るために，来年度は乾田直播の生育調査ほを設置するとともに，情報交換や技術習得を行う現地検討会の開催を検討しています。
普及センターでは引き続き，乾田直播技術の普及推進に向けた支援を行ってまいります。

○小麦の生育調査を行いました

令和4年3月8日
大崎農業改良普及センター

（小麦ほ場全景）

令和４年３月１日，大崎市古川の現地ほ場で小麦の生育調査を行いました。今作の小麦は１２月下旬から２月中旬までの間，根雪となり小麦の生育が心配されましたが，雪解け後の小麦は特に障害も見られませんでした。また，根雪期間が長かったため，渡り鳥等による葉の食害も少なくすみました。

生育調査では，小麦の草丈，茎数及び実験室にサンプルを持ち帰って幼穂長（穂になる元）の測定を行いました。今年の１月から２月の気温が平年より低く経過したため，小麦の生育ステージは若干遅れていますが，生育は概ね良好でした。

これから春先にかけて，追肥等管理の大切な時期となりますが，普及センターでは大崎麦作情報の発行等をとおして，小麦の高品質安定生産を支援してまいります。

○一迫水稲採種組合の水稲種子籾栽培講習会が開催されました

令和4年3月15日
栗原農業改良普及センター

令和４年３月１０日（木），JA 新みやぎ一迫営農センターにおいて，一迫水稲採種組合の水稲種子籾栽培講習会が開催されました。令和４年の種子生産の作業がこれから本格的に始まるのを前に，優良種子生産の基本事項の確認を目的として，組合員２８名が出席しました。

普及センターからは，漏生稲対策や異株抜きの徹底，いもち病，稲こうじ病等の病害対策を中心とした栽培管理技術について説明しました。近年，出穂前の低温少照や出穂期以降の高温など，気象変動が大きくなっており，ほ場をよく見回り，適切な水管理と病害虫防除を実施するよう，指導しました。

講習会後，ＪＡ担当者から組合員に「ひとめぼれ」，「つや姫」等の原種が配布されました。参加した組合員は，本年の優良種子生産へ取り組む決意を新たにしていました。

○「水田における高収益作物導入に向けた排水対策研修会」を開催しました

令和4年3月15日
栗原農業改良普及センター

水田において大豆や園芸作物への作付転換を図る際に課題となるのは排水対策です。栗原市金成津久毛地区は，これまで水稲以外の作付けが難しい地域でしたが，ほ場整備事業完了後を見据え，排水対策を工夫しながら大豆，ばれいしょに取組んでいます。

令和４年３月９日に農研機構農村工学研究部門の北川巌氏を講師に「水田における高収益作物導入にかかる排水対策研修会」を開催しました。今回の内容は，心土破砕による排水対策を行うカットブレーカーを用いて，品質向上，収量アップを図るものです。研修会には，津久毛地区担い手，法人，関係機関等１０名が参加しました。

講義では，カットブレーカーの特長や土壌のタイプ毎の排水対策（カットドレーン，サブソイラー等），全国各地の代表的な事例のほか，北海道十勝地方の地域で排水改良に取組み地域全体の小麦の収量，品質がアップした事例等についてデータに基づいた説明をいただきました。その後，大豆ほ場でデモ走行を行いました。参加者の中には導入に興味を示す声もありましたが，価格，使用頻度を考えると，これらの機械は農協や任意組織等で購入し，地域全体で「機械」と「技術」を使いまわすことが地域農業の底上げになると助言がありました。

午後からは，ばれいしょ作付け予定のほ場でカットブレーカーを施工しました。これまで湿害等で収量が上がらず栽培に苦労したが収量アップが期待できると生産者の意欲向上にもつながっています。

普及センターでは，大豆，ばれいしょの施工ほ場について今後，生育調査等により効果を確認しながら引き続きフォローアップを行っていきます。

○大豆特定種子の生産物審査証明書を発行しました
令和4年3月16日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センター管内では，本県で大豆の優良品種に指定している「ミヤギシロメ」の種子を９ha 栽培しており，県内で生産される種子大豆の約６％を担っています。
普及センターが発芽率などの生産物審査を行い，その後ＪＡが品質などの農産物検査を実施し両方の基準を満たしたものだけが，令和４年産用の種子大豆になります。
今年審査した種子大豆も例年同様に，発芽率等の基準を満たし，令和４年３月１５日に生産物審査証明書を発行しました。
令和３年は，天候に恵まれたことに加え，生産者の適切な栽培管理により優良種子の契約数量を確保することができました。
普及センターでは，今後も大豆の優良種子の生産に向けて支援していきます。

○穂数確保に向けた麦現地検討会が開催されました
令和4年3月18日
石巻農業改良普及センター

令和４年３月９日に石巻市河北地区で，ＪＡいしのまき転作部会河北支部主催の麦現地検討会が開催されました。検討会には生産者約１０名が参加し，古川農業試験場作物栽培部が講師となって，ほ場を巡回しながら茎の中にある幼穂の長さを計測し，追肥の適切な時期を予測して追肥時期の検討を行ったり，生育状況やほ場条件から，麦踏みの可否を確認しました。この時期の追肥は穂数増加効果があり，麦踏みは穂の生長をそろえたり，倒伏による品質低下を防ぐ効果があるため，収量・品質向上につながる大切な作業です。生産者は熱心に麦の生育状況を確認し，今後の管理について積極的に意見交換をしていました。
令和４年産麦類は，は種後の天候に恵まれて初期生育が良好であったため，概ね生育は順調です。普及センターでは今後も高収量・高品質の麦生産を支援していきます。

○生育ステージ確認の麦現地検討会が開催されました
令和4年3月24日
石巻農業改良普及センター

令和４年３月１６日に石巻市の稲井・蛇田地区で，ＪＡいしのまき転作部会石巻支部主催の麦現地検討会が開催されました。検討会には生産者約１５人が参加し，ほ場を巡回しながら茎の中にある幼穂の長さを計測し，生育状況を確認しました。今回巡回したほ場の多くは，もち性大麦の「ホワイトファイバー」で，食物繊維である「β-グルカン」を多く含んでいるほか，炊飯すると通常の麦より色が白く，香りや食味が良いといった特長があります。麦類の収量・品質の向上には１０月中旬頃の適期に播種することが重要で，巡回したすべてのほ場は１０月中に播種されていました。追肥や麦踏みなどは，気象状況や生育状況から早めに作業を実施しており，普及センターからは，４月以降の追肥も適期に行うことで，収量・品質向上につなげるよう呼びかけました。生産者は熱心に麦の生育状況を確認し，今後の管理について積極的に意見交換をしていました。
普及センターでは今後も高収量・高品質の麦生産を支援していきます。

２．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○あ･ら･伊達なシャインマスカット，今年の作業はせん定から
令和4年3月4日
大崎農業改良普及センター

大崎市岩出山の「あ・ら・伊達な道の駅」が生産支援に取り組んで２年目となる「ぶどう（シャインマスカット）」の生育状況確認とせん定作業支援を２月中旬に行いました。

令和３年に初めて植え付けられた苗は，発芽や生育過程で心配もありましたが順調に生育し，せん定の時期を迎えることが出来ました。

対象者の各ハウスを巡回し，生育状況（枝の伸び）に合わせたせん定方法について指導しました。植え付けてまもない樹の収穫には時間がかかりますが，数年前に植えた苗のぶどうは，この秋にも販売が期待されます。

普及センターでは，これからも地域農業の維持発展に向け，生産支援等を行っていきます。

○酒造好適米「吟のいろは」の情報交換会を開催しました

令和４年３月７日
美里農業改良普及センター

「吟のいろは」は、宮城県で育成した酒造好適米で，原料の約半数は松山町酒米研究会で生産しています。柔らかく，ふくよかな酒ができることから，実需者も期待を寄せており，令和３年度の宮城県清酒鑑評会では，受賞 12 銘柄のうち５銘柄が吟のいろはを原料としたものとなりました。

去る２月２２日，吟のいろはの生産実績や活用状況に対する情報共有を目的に，松山町酒米研究会と美里農業改良普及センター共催で，web 形式による吟のいろは情報交換会を開催しました。当日は中島源陽県議，髙橋伸二県議にも参加いただき，日本酒に対する応援の言葉をいただきました。

最初に，普及センターから展示ほを中心とした酒米研究会の活動紹介，県産業技術総合センターからは玄米成分分析結果の説明を行いました。

意見交換では，酒造組合や蔵元の方から「大粒で心白発現率も高く，酒米らしい米」「味わいのある酒に仕上がり，楽しみである」と評価がある一方で，「精米時に割れやすく，原料調整に苦労した」「品質のばらつきがあり，若干不安もある」といった原料の改善を求める意見や，また「まだ知名度が低い」というＰＲに関する意見も出されました。酒米研究会の出席者からは，「今までこのような意見交換の場がなかったが，今後は相対で話ができるとよい」という意見が出されました。

まとめとして，県食産業振興課から，日本酒に対する支援と，各種媒体を使った県産品の PR 活動について紹介がありました。

デビューしてまだ日の浅い「吟のいろは」ですが，普及センターでは，松山町酒米研究会と一緒に，実需者の要望にこたえられる原料の生産を目指して取り組んでいきたいと考えています。

○亘理町産りんごを使った新商品を販売中です！

令和４年３月９日
亘理農業改良普及センター

今年度，亘理農業改良普及センターでは，りんごの栽培技術向上と，産地としての知名度向上を目的に，生産者や亘理町，商工会等の関係機関と連携し，地域のりんごを使った商品開発を支援しています。

今回，亘理町内の加工業者や農産加工者等が研修会や専門家によるパッケージ開発指導等を受けながら，りんごソフトクリームやゆべし，ドライフルーツ等の加工品５品を完成させ，亘理町内等で３月上旬を販売し始めました。季節商品の他，通年販売予定の商品もあり，今後，亘理町の新しい特産品になることが期待されます。

普及センターでは，今後も当地域のりんごの普及拡大を支援していきます。

★上記写真は開発商品の一例です。商品や販売場所について，詳しくは下記の HP を参考にしてください。

https://www.pref.miyagi.jp/documents/37769/ringosyohin.pdf

○ヤマト運輸株式会社との連携による果物ロゴマーク入りご当地のぼり旗贈呈式開催！

令和４年３月10日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センターでは，亘理町，山元町や生産者等と共に，両町の特産品である「りんご」と「シャインマスカット」を活用した地域振興のプロジェクトを進めてきました。

その取組の中で，亘理町と山元町共通の果物２種類のロゴマークを作成し，活用促進の一環として，趣旨に御賛同いただいたヤマト運輸株式会社様に，今回，当デザインを活用した自社ののぼり旗※を特別に作成していただくことになり，令和４年３月８日に，のぼり旗のお披露目及び贈呈式が亘理町役場

にて行われました。
　今後，亘理町・山元町内のヤマト運輸株式会社取扱店等では，順次こののぼり旗に切替えていく予定です。沿道を彩るこののぼり旗は，両町を訪れる観光客等への産地 PR になります。
　普及センターでは，民間企業との連携による地域振興や県産食材の PR 推進に向けて，今後も支援していきます。（ヤマト運輸株式会社は，宮城県，亘理町，山元町と包括連携協定を締結しています。）
※ヤマト運輸株式会社の宅配便取扱店等が店先や沿道に掲げる旗です。

○上品な色の染め物にも活用される薬用植物「ムラサキ」のは種作業が行われました
令和4年3月14日
大崎農業改良普及センター

　加美町のシンボル的な山で加美富士とも呼ばれる『薬莱山』には，周辺の山も含めて薬用植物が自生する環境があり，それを活かすべく薬用植物の産地化に取り組んでいます。
　「ムラサキ」は上品な染め物にも使われるものでもあり，加美町薬用植物研究会が中心となって栽培を行っており，今年度の始まりとなるは種作業が行われました。
　「苗半作」という言葉もありますが，特にムラサキは発芽率が悪いことなどから，培土の種類を変える等の色々な工夫をしながら苗作りを行っています。
　普及センターでは，これからも地域農業の維持発展に向け，生産支援等を行っていきます。

○ふさすぐりせん定講習会を実施しました
令和4年3月18日
栗原農業改良普及センター

　令和４年３月１５日に栗原市花山地区において，ふさすぐりのせん定講習会を開催しました。せん定講習会では，ふさすぐりの樹の特性など基礎事項を説明し理解を深めた後に実習を行いました。参加者は，枝の生育状況や風通しを考慮し，切る枝，残す枝を講師に確認しながらせん定作業を行っていました。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER No.182
発行日:2022 年 4 月 11 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp